

『税』の意義

福山市立鷹取中学校 3年 浜 日奈乃

私は児童養護施設に入った経験がある。施設に入ることは急に決まったことだったからその当時、身に付けていたものと教科書類しか持っていない状況だった。そんな中、施設からは服や下着、靴下など生活する上で必要不可欠なものは全てそろえて貰っていた。他にも塾や華道を習ったり、栄養バランスのよいご飯を毎日三食食べていたりもした。普通の生活と変わらない、いや下手したらそれより良い生活をさせて貰っている事に幼いながら疑問に思ったものだ。そこから数年経ち、学校の授業をきっかけに児童養護施設は税金によって運営されているということを知った。

そこで私は、昔疑問に思ったことを踏まえ、児童養護施設ではどのようなところに税金が使われているのか調べることにした。習い事の費用や人件費、食費や洋服代など…。他にも18歳を迎え退所する子の新生活の準備に使われているということを知った。施設で暮らしている子は税金によって生活できているということが分かった。その子たちは税金のお陰で生きているといっても過言ではないということだ。しかし世間では「かわいそうな子達」「税金を使っているくせに感謝をしない」「最低限の生活をしろ」などと言われている。実際、私もかわいそうとかつて言われたことがある。もちろん苦労したこと、悲しかったことは沢山ある。それでも私は私のことをかわいそうな子と思ったことは一度もない。感謝をしていないみたいなことも言われているが私はあの時なに不自由なく生活させて貰っていた事に本当に感謝しているし税金があって良かったなと心の底から思えた。

皆、一度はこう思ったことがあるんじゃないだろうか。「税金がなくなればいいのに」と。私も昔思ったことがある。服を買ったとき、レシートを見て消費税がなかったらもっと安く済んだしキリよくお会計ができて小銭が多くならずに済んだのにと。でもその税のお陰で生活できている子が沢山いるのも事実だ。税は施設だけではなく道路や橋の整備、犯罪防止や交通安全の確保などに務める警察、学校の建設などにも使われている。こう聞くと、税の力を借りずに生活している人間はいないはずだ。自分は税によって助けられているのにそんな自分は税を払わないのは無責任な話だ。だからこそ皆は税を払う義務がある。私たちはまだ子供だから払う税は消費税しかない。けど私たちが大人になって払う税が増えたとき、改めて『税』の大切さが分かるだろう。